飯岡秀夫教授定年退職記念号に寄せて

経済学部長　石　川　弘　道

飯岡教授の定年退職記念号に、いかなる一文を載せるのが相応しいのか考えてみました。定年退職も卒業の一つです。そこで、わがゼミ生への卒業に際しての贈り物と同様、お名前の「飯岡秀夫（いいおかひでお）」をおりこんで、一首詠うこととしました。

抱く夢
いつもルソーを
追い求む
果皮で見えざる
奥の種子へと

「ルソーさん」と親しみを持って呼ばれている研究者、それが飯岡教授です。飯岡教授は「ウェーバーとマルクス」問題が、大学生の時から本学における専任講師時代までの研究テーマであったと述べています。

その後、ウェーバーとマルクスを媒介する思想家にルソーがいることを知り、研究の中心テーマを「ウェーバーとマルクス」問題視角からの「ルソー研究」とされました。

飯岡教授は「内なる良心の声に耳をかたむけなさいという」ルソーの言葉を「自分自身」でありつづけるためには「内部感覚」の使用が必要不可欠なのだと学生たちに説き、「自分自身」にたちかえって自己のアイデンティティーを獲得すること、それを「古い自己」が死に「新しい自己」が生きはじめるという意味をこめて「再生」と呼んでいます。

ルソーの果実を果皮の奥にある種子まで研究し尽くそうとする情熱と、それをわかり易く教育現場で広く紹介すると共に、自らの生き方に反映している姿を先の歌に集約したつもりです。

研究・教育だけでなく、飯岡教授は経済学科長、広報委員長、学生部長、評議員、経済学部長、図書館長という要職を務められ、本学の発展に大いに貢献されて来ました。

飯岡先生の私的な面について語るほどのお付き合いはないのですが、ダンディーな服装をされ、囲碁を楽しまれ、お酒や音楽にも精通された多趣味な

方であると認識しています。また、非常に大柄な体型は、研究でも趣味でも、いかなるものでも受け入れることが可能な器の大きさを目で見える形でお示しになっているように思われます。

飯岡先生、長い間ご苦労様でした。先生には、退職後も特任教授として本学の教育にお力をお借りすることになります。宜しくお願い申し上げると共に、ますますのご研鑽を期待しております。